

## 運用検討ワーキンググループの取組について

---

## 問題意識

空間情報インフラを活用したサービスが継続的に展開できるためには、  
継続的に空間情報インフラを整備・更新する仕組みが必要



何を目的として整備するか？

必要な精度、レベルは？

誰が整備・更新するか？

コストに見合うメリットは？

施設の更新情報はどこから取得するか？

効率的な情報の整備・更新の仕組みは？

高精度測位技術を活用した避難誘導やナビゲーションをはじめとした様々なサービスが生まれ、継続的に展開できる環境を整えるため、特に以下の課題の解決に向けた検討を実施する。

## ●体制等の課題

- 空間情報を活用したビジネスモデルをどう具体化するか
- 異なる施設管理者等からなる屋内空間の空間情報インフラをどう整備・更新していくか
- 頻繁に更新される屋内空間の施設等に関する情報を更新するための仕組み・体制をどう構築するか

# 運用検討WGの取組と目指すアウトプット

空間情報インフラを活用したサービスを明確化するとともに、継続的なサービス実現のために必要な仕組み等について検討する。

## (1) 提案の公募

【効率的な整備・更新の仕組み】

異なる施設管理者等から効率的に施設の更新情報等を集める仕組み 等

【ビジネスモデル】

人流データをもとにしたビッグデータビジネス 等

【高精度測位環境の利活用アイデア】

施設管理、広報戦略、観光、自動運転…

## (2) ヒアリング、検討

提案等に基づき、ヒアリングやWGへのメンバー追加等を行いながら整備・更新の仕組み、ビジネスモデル等を具体化。

## (3) 平成27年度の協議会の体制案の検討

- ・ 空間情報インフラを継続的に更新する仕組みの案
- ・ ビジネスモデルの案
- ・ H27年度の実証事業を関係機関の協力・連携により実施するための協議会の構成メンバー案